

## 実技指導

# 製本入門

自分だけの本をつくろう！

講師：真野 節雄

(日本図書館協会資料保存委員会委員)

都立中央図書館で資料の補修に携わっている講師の指導のもと、8名の参加者が、資料製本のワークショップを行いました。

午前は、まず、本の構造、材料・道具などについて説明を受けながら、「かしわ製本」に取り組みました。午後は、「和装本」を製作しました。

参加者同士で教え合ったり、休み時間に展示をみながら話に花が咲いたり、和やかな雰囲気の中で講習が行われました。

## 1 材料、道具について

### (1)紙

紙の目に注意して使用する。タテ目に使うのが、原則。理由は開きやすく、折りやすい上、糊をのせやすいためである。

目を判断するには、水を含ませた筆で紙にタテ、ヨコに線を書いてみるとよい。タテ目は伸び縮みがほとんどないが、ヨコ目は縮んで波うったようになる。

### (2)糊

でんぷんのりを基本に、使用する場所や用途に応じて化学糊を混ぜ、混合のりを作り、水で薄めて使用する。使用に際しては、よくかき混ぜてなじませる

- ・でんぷんのり（市販のものでよい）

資料を柔らかく仕上げることができる。水を使って簡単にはがすことができる反面、接着力が弱い。

- ・化学糊（木工用ボンド）

接着力が強いいため、使用は最低限にする。

### (3)目打ち

穴を空ける、折り筋を付ける、採寸するなど色々な用途に使える。



▲目打ちで印をつける

### (4)カッターナイフ

日常的に使用する工作用のものでよい。

### (5)筆

薄く伸ばすため、こしのある平筆がよい。

## 2 かしわ製本

「かしわ製本」はコピーやパンフレットなど一冊にまとめる、もっとも簡単な製本方法です。「かしわ餅」のように、表紙でくるむので「かしわ製本」と呼ばれます。

今回は、参加者が持参した資料で「かしわ製本」の工程を学びました。

### ①本体をまとめる。

製本する資料をまとめて、二枚の板に挟んで重しを載せ、落ち着かせた後、背に薄く糊をぬり、仮固めをする。

②糸を通す部分に目打ちで穴を開け、麻糸で三つ目綴じ（大きさにより四つ目綴じ）を行う。



▲目打ちで穴を開け、麻糸で綴じる

### ③見返しを付ける

見返しには少し厚めの紙を使用する。二つ折りにし、本体を綴じた糸が隠れるくらいのりしろで貼る。中身からはみ出た部分を切り落とす。

### ④表紙を付ける

表紙用に厚めの色紙を用意する。本体をくるむようにし、背・見返し・表紙を糊付けして完成。

## 3 和装本（四つ目綴じ）

世界的にもっとも優れた製本方法のひとつである四つ目綴じの講習を行いました。

### ①本紙を準備する。

和紙（書道半紙）20枚を半分に折る。

### ②本紙を紙縫こよりで中綴じする

目打ちで穴を開け、和紙で作った紙縫こよりを通し、結び目が裏側にくるよう、ひと結びする。

### ③表紙を付ける。

目打ちの腹で筋を付け、背側を折り込む。表紙と本紙をあわせ、中心を糊で仮止めする。天地・前小口の三辺を内側に折り込む。

### ④糸で綴じる

目打ちで四ヶ所穴を開ける。本紙の3倍の糸を針に通し、四つ目綴じをする。



### ⑤仕上げ

表紙と本体を数ヶ所、糊止めする。題箋だいせんの一部に糊を付けて、表紙に貼る。板に挟んで重しを載せ、糊を乾かす。

目打ちで折り癖をつけて開きやすくしたら、完成。



▲ 完成した世界で一冊の自分だけの本

## 4 アンケート・感想

ワークショップ終了後、記入されたアンケートには、「家でも作ってみたい。」「大変、面白かったです！趣味にしたい。」「参考になった。」と多くの好評の声が寄せられました。